

「各モデル地区の取り組みがもたらした可能性と 今後活動を進めていくための課題」



島根県中山間地域研究センター地域研究グループ

各地区の取り組み条件、地域MGタイプ、活動内容の特徴（概略）

	活動開始前の条件					地域MGの 従事形態 × 人数	2力年の活動の方向性	
	地区単位 での「地域 づくり計画」 等の有無	地域活性 化に係る 活動の有 無	地区ぐる みの活動 の有無	地区単位で の地域づくり 拠点の有無	集落数 人口※ H20年度末		守りの分野 防災、見守り、 生活サポート、 資源管理等	攻めの分野 加工品製造販 売、農村都市交 流、定住等
波多地区 (雲南市)	○	○	○	○	15集落 448人	常勤1名 ※週5日程度	◎	○
阿須那地区 (邑南町)	—	○	—	○	39集落 961人	非常勤1名 ※週2～3日	○	◎
市木地区 (邑南町)	○	○	○	○	9集落 521人	非常勤1名 ※週2～3日	○	◎
日和地区 (邑南町)	○	○	○	○	10集落 503人	非常勤1名 ※週2～3日	◎	○
布施・武良地区 (隠岐の島町)	—	○	—	—	8集落 1404人	常勤1名 ※週5日程度	○	◎
波佐・小国地区 (浜田市)	—	○	—	—	22集落 865人	非常勤2名 ※週3日程度	○	◎
弥栄地区 (浜田市)	—	○	—	○	27集落 1619人	常勤1名 ※週5日程度	○	◎
種地区 (益田市)	○	○	○	○	11集落 346人	地区振興セク-職員 (嘱託常勤)	◎	◎
二川地区 (益田市)	○	○	○	○	11集落 313人	地区振興セク-職員 (常勤)	○	◎
匹見下地区 (益田市)	○	○	○	○	17集落 348人	地区振興セク-職員 (常勤)	○	◎

<報告にあたって>

■今回の各地区での取組の特徴

- 新たに立ち上げたコミュニティ再生重点P事業の実施団体を受け皿に、地区の人と組織、地区内外の人、組織を繋ぎ、新たな地域運営態勢を作ろうとしていること
- 実施団体の切り盛り役として「地域マネージャー」が配置されたこと

■報告の視点

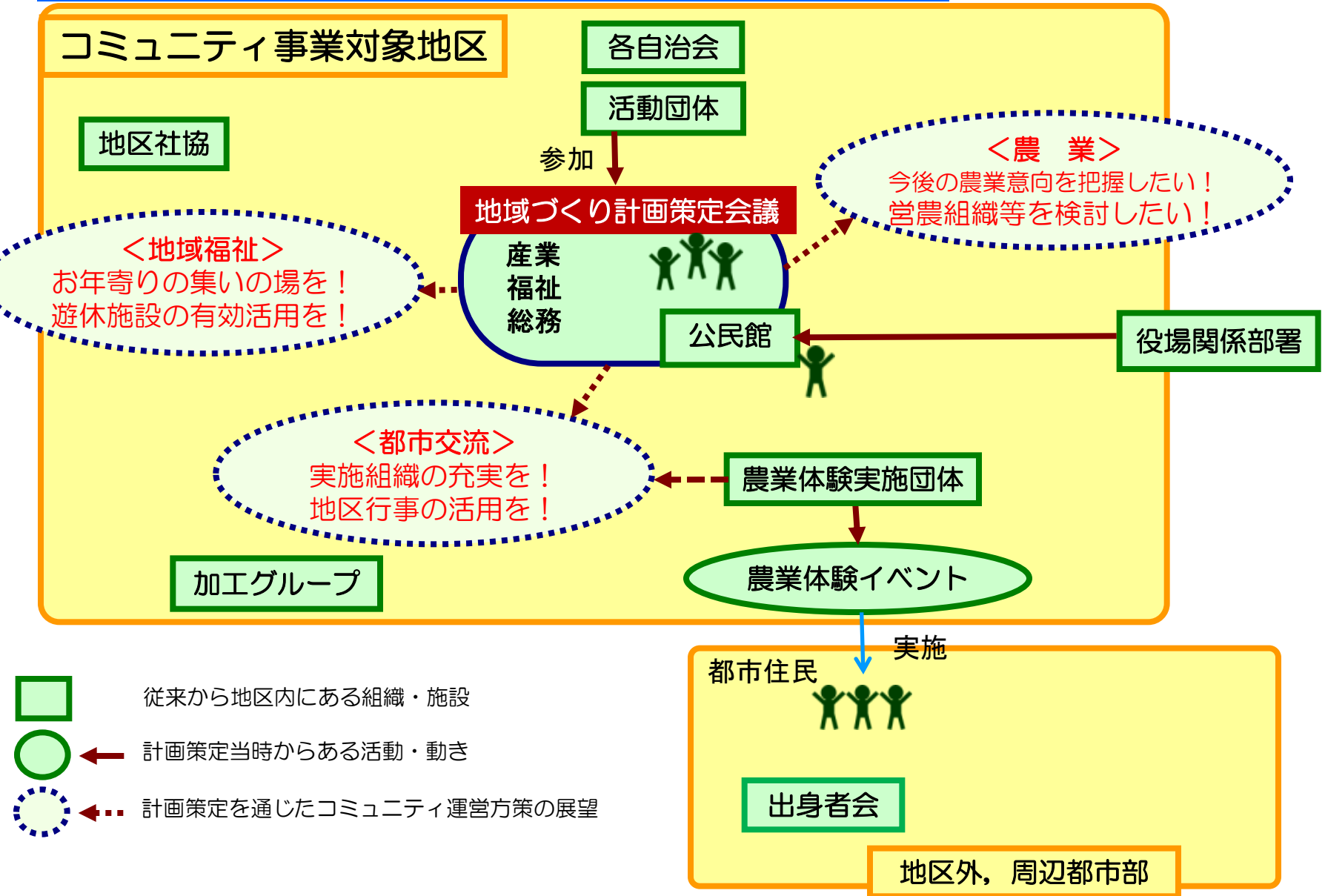
1. 実施団体による2カ年(1カ年)の活動の結果、地区の内外でどのような繋がりができ、どんな可能性がもたらされたか
2. 今後、取り組みを進めていくための課題とは
3. サポートさせて頂いた地域研究グループスタッフの視点から

1. 地区内外で新たにできた繋がりと可能性の特徴 ～活動前・活動開始時・現在の比較～

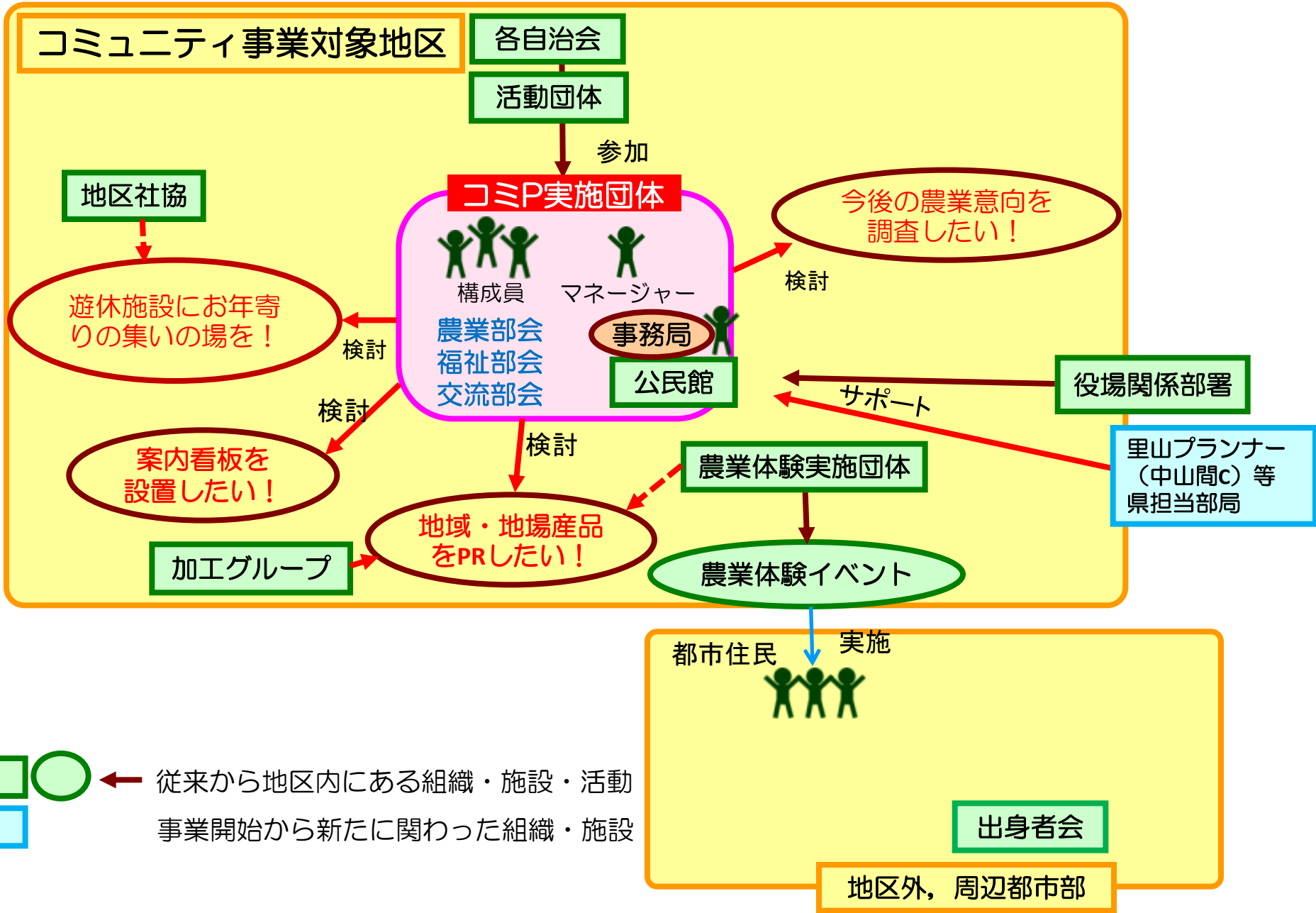


タイプ1 事業前からの地区での地域づくりの話合い・動きをベースに

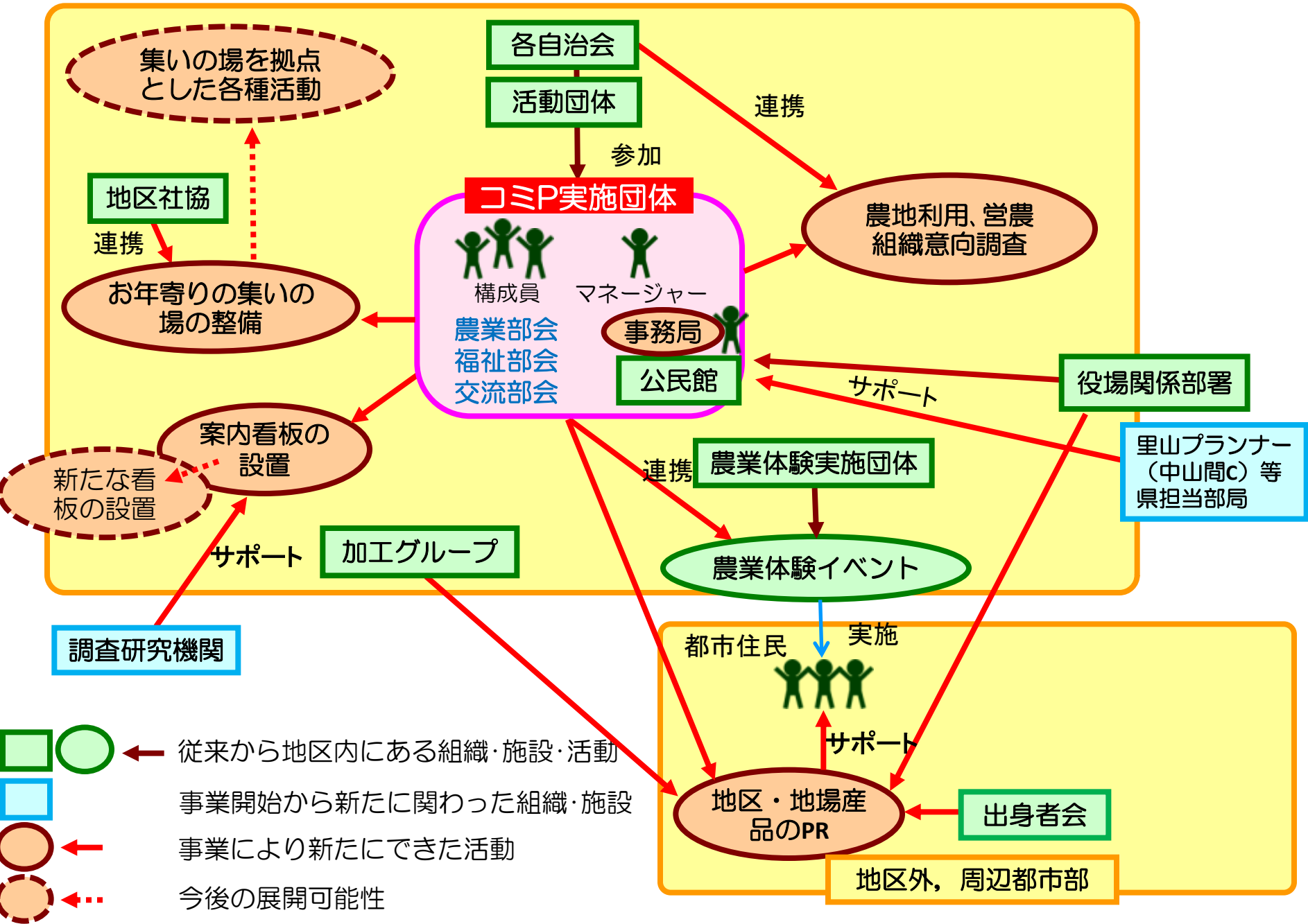
ア. 地区での組織・施設の関係（活動前）



イ. 地区の組織・施設の関係 (活動開始時)

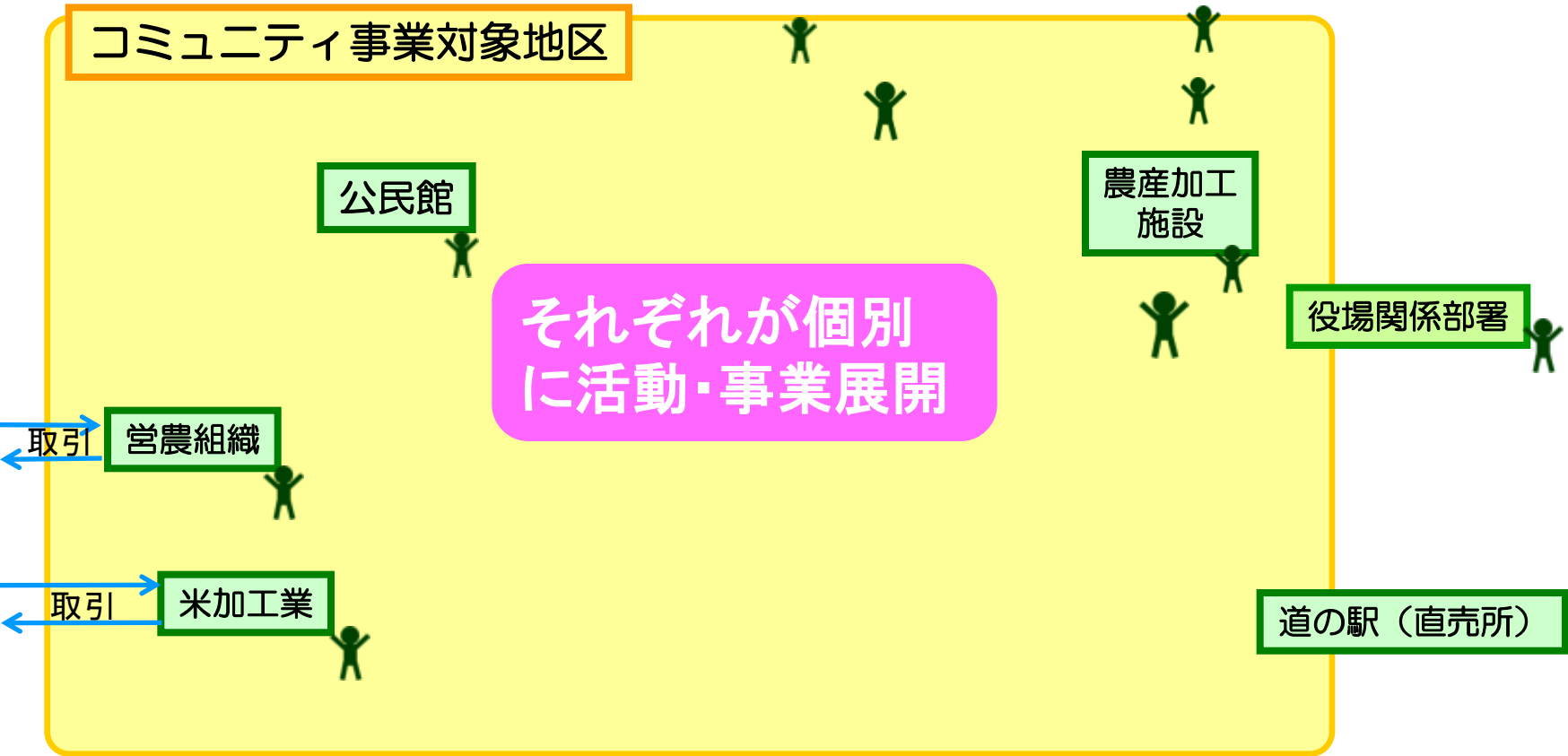


ウ. 対象地区の組織・施設の関係(現時点)

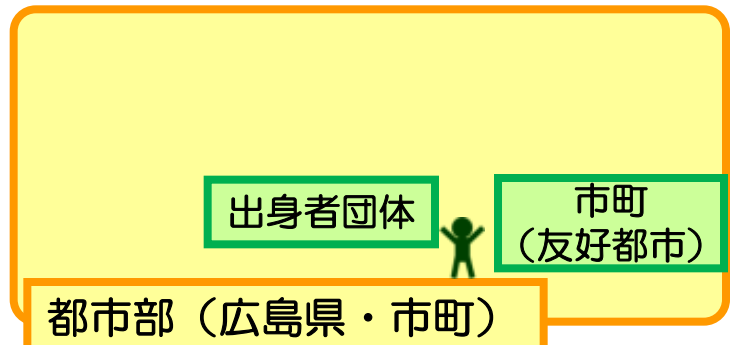


タイプ2 地区ぐるみの地域づくりの動きがあまりない状態からスタート

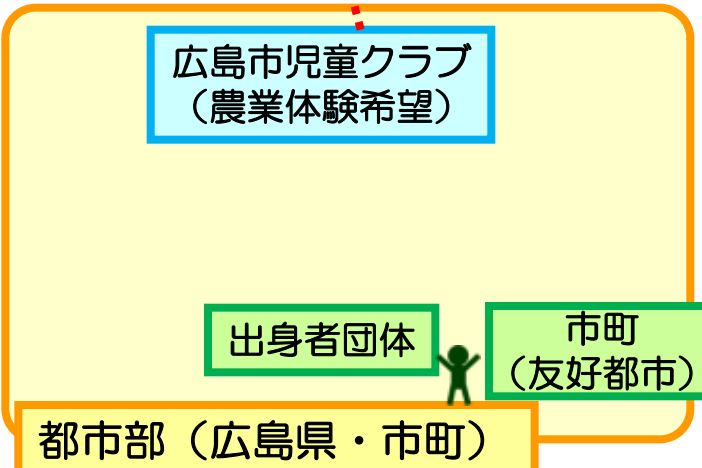
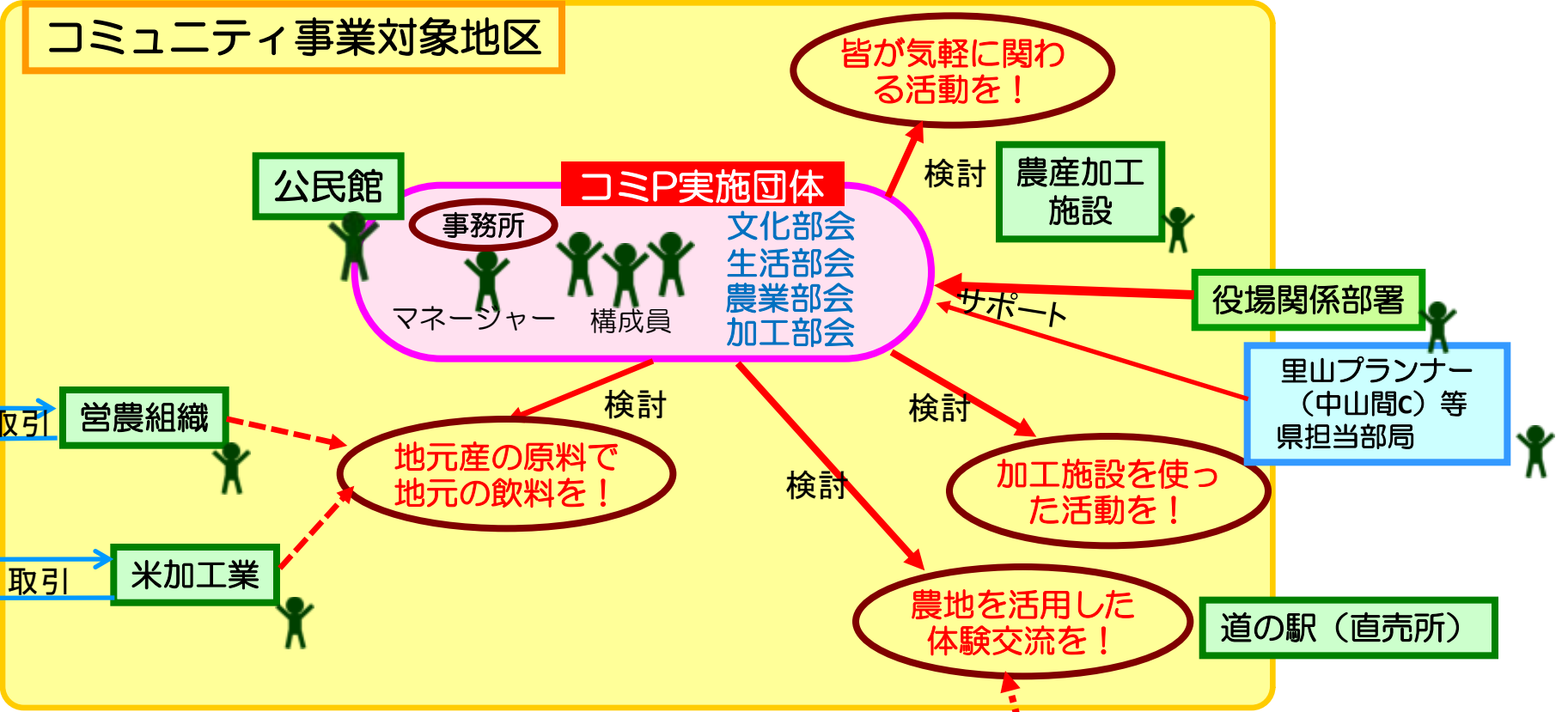
ア. 地区での組織・施設の関係（活動前）



 ← 従来から地区内にある組織・施設



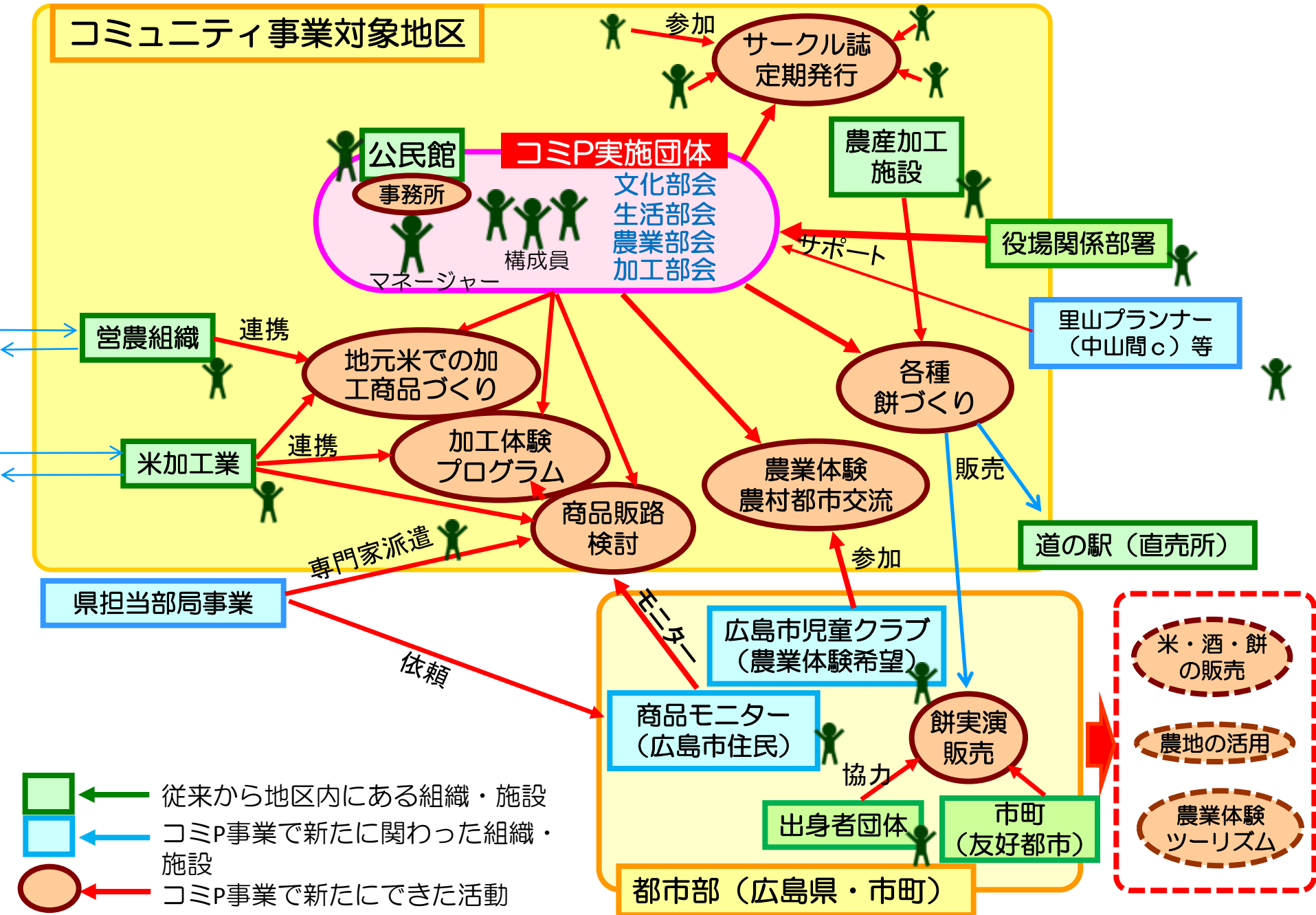
イ. 地区の組織・施設の関係 (活動開始時)



← 従来から地区内にある組織・施設
 ← コミP事業で新たに関わった組織・施設

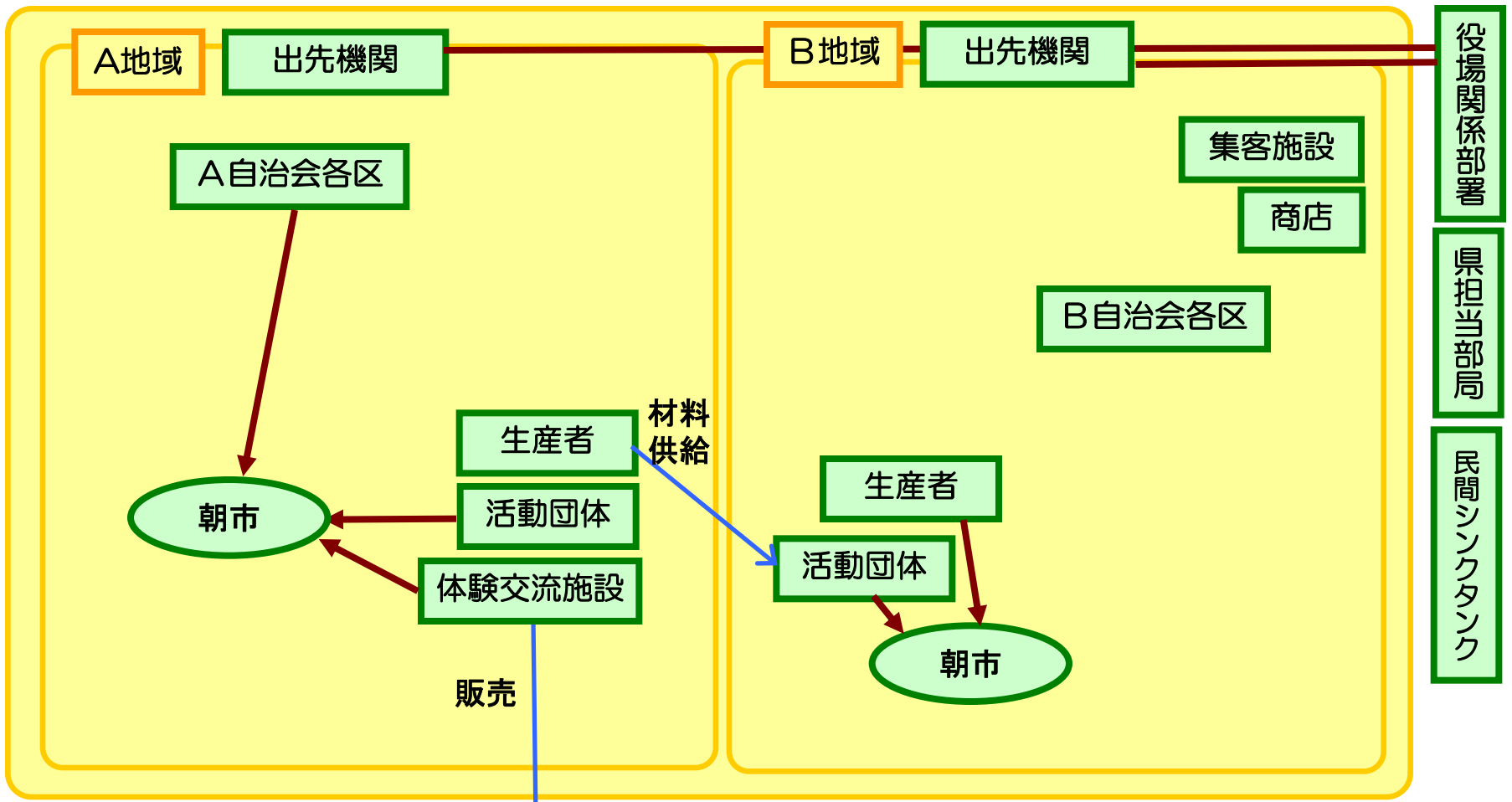
都市部 (広島県・市町)

ウ. 対象地区の組織・施設の関係(現時点)



タイプ3 2つの地域が連携して活動の結節点づくりからスタート

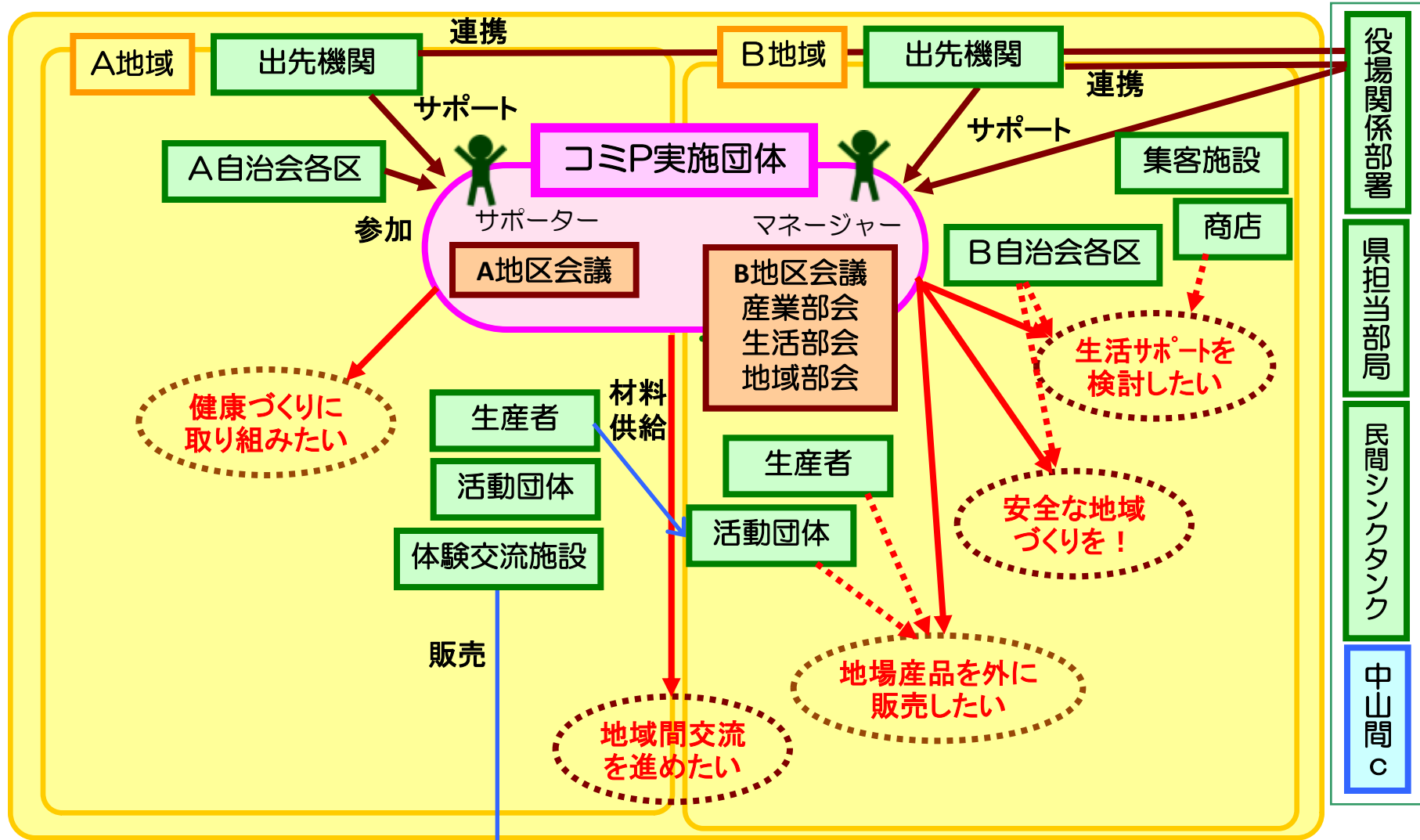
ア. 地区での組織・施設の関係（活動前）



◻ ◯ ← 従来から地区内にある組織・施設・活動



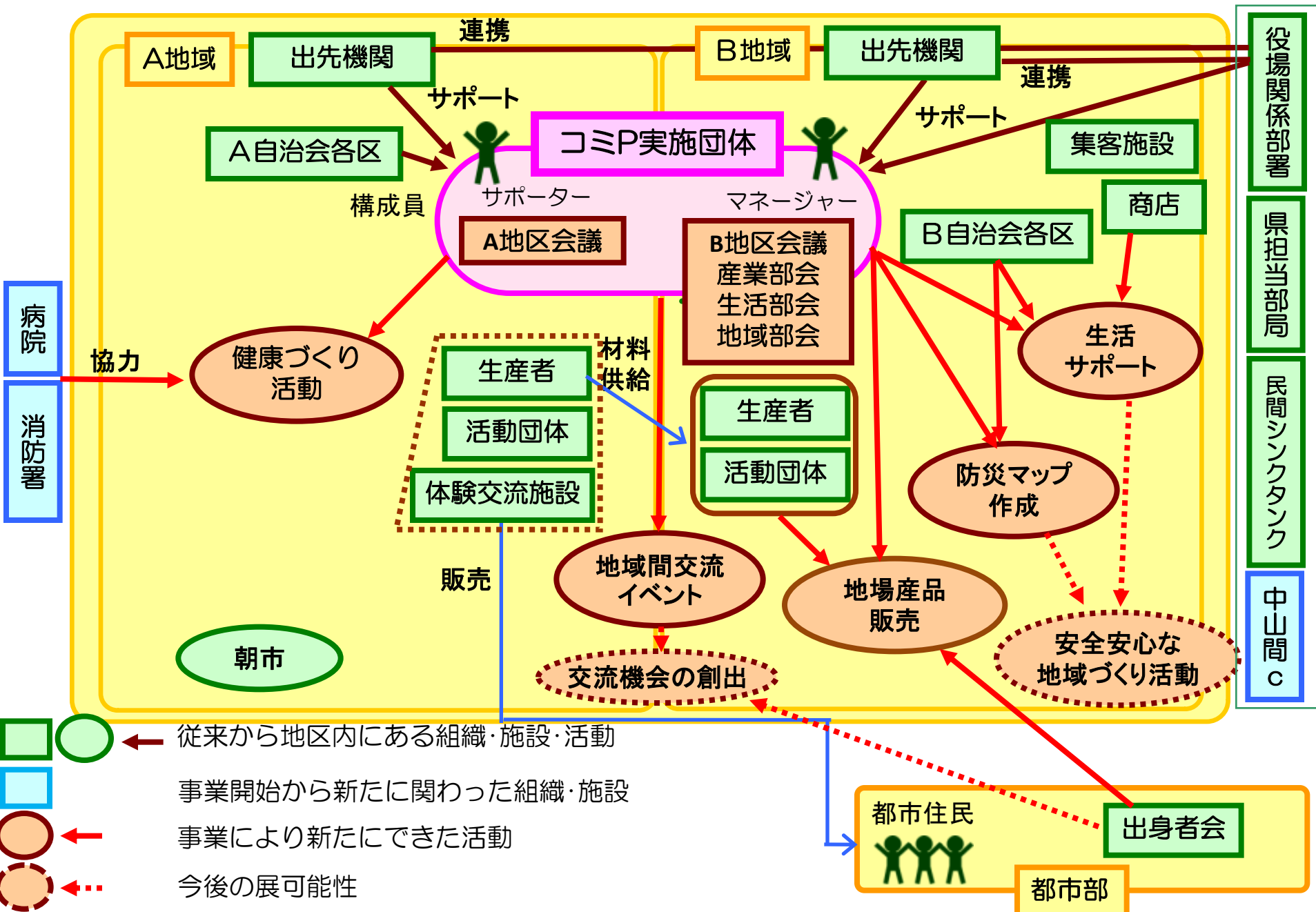
Ⅰ. 地区の組織・施設の関係(活動開始時)



- ← 従来から地区内にある組織・施設・活動
- ← 事業開始から新たに関わった組織・施設
- ← 事業により新たにできた活動



ウ. 対象地区の組織・施設の関係 (現時点)



2. 今後、取り組みを進めていくためには、 どんな課題があるか



(1) 各地区の活動拡大と実施団体への影響

- ① 活動の活発化と活動量の増大
- ② 地域マネージャー、リーダー、参加者の活動量増大
- ③ 活動拡大に伴う、求められる役割の増大
- ④ 地域マネージャーについてまわる4つの「悩み」の環

各地区での取り組みの流れのイメージ

例えば・・・



地域MG

日程調整

グループで
方向性
話し合い

会議録・模様をブログで紹介

グループ毎
話し合い

グループ毎
活動

第1回 全員で会合（ワークショップ）

高齢者が寄
れる場所

農地の管理
が必要

食に関わる
ことしたい

地区外の人
と交流したい

第2回 全員で会合（ワークショップ）

グループリーダー
月1回の
サロンを

グループリーダー
農地一筆
調査

グループリーダー
加工品開
発グループ

グループリーダー
空き農地
農業体験

どんなサロ
ンがいいか

他事例を勉
強しよう

把握方法は？
活用方法は？

使えるデータは？
ツールの使い方は？

素材は？人
は？施設は？

他事例を勉
強しよう

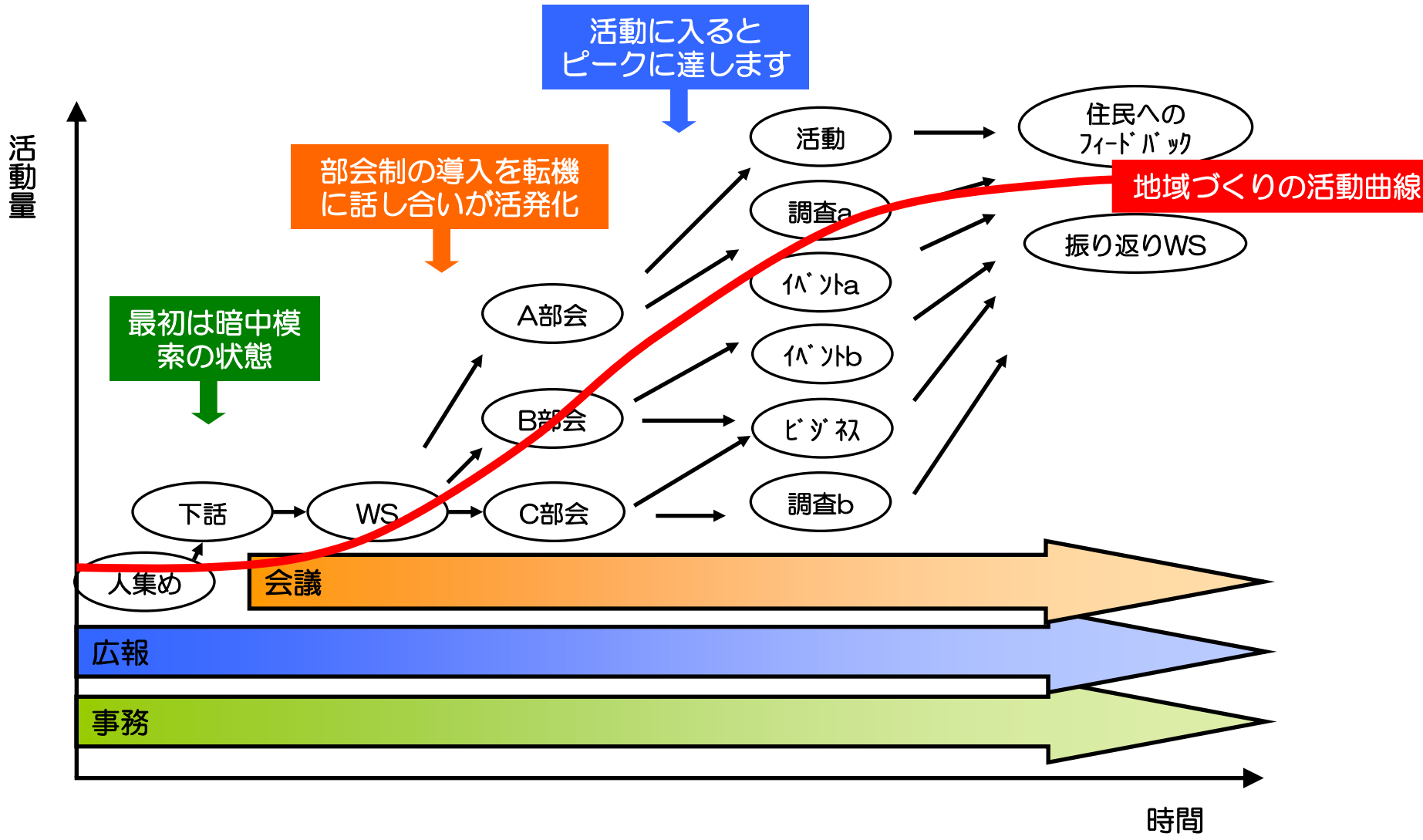
場所は？人は？

他事例を勉
強しよう

第3回 全員で会合（情報共有会議）

①活動の活発化と活動量の増大

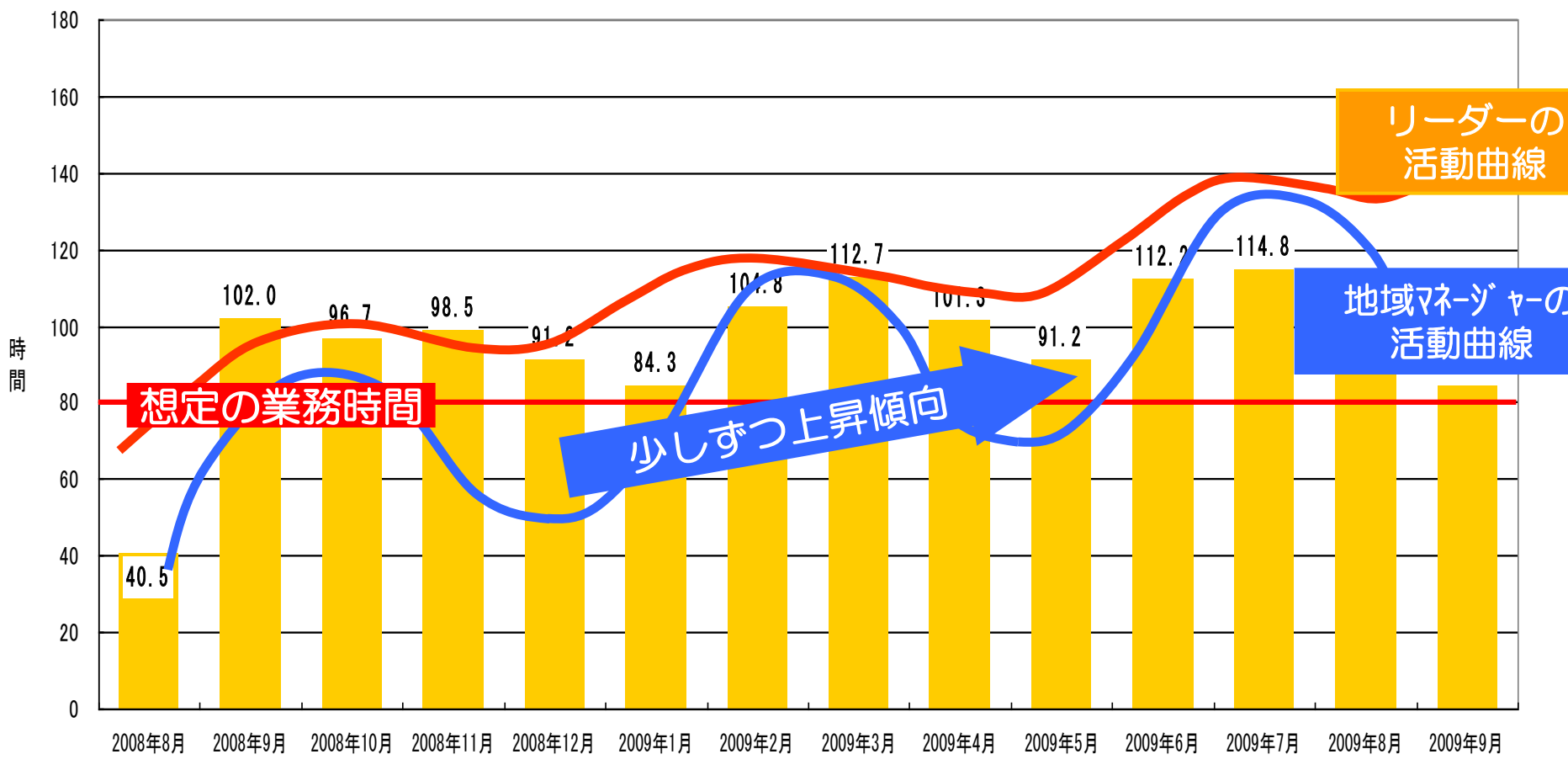
- ◆地域づくりに関わる活動数は「イモツル式」に増えていきます。
- ◆それに伴い活動量も「S字カーブ」を描くように膨らんでいきます。



②地域マネージャー、リーダーの活動量の増大

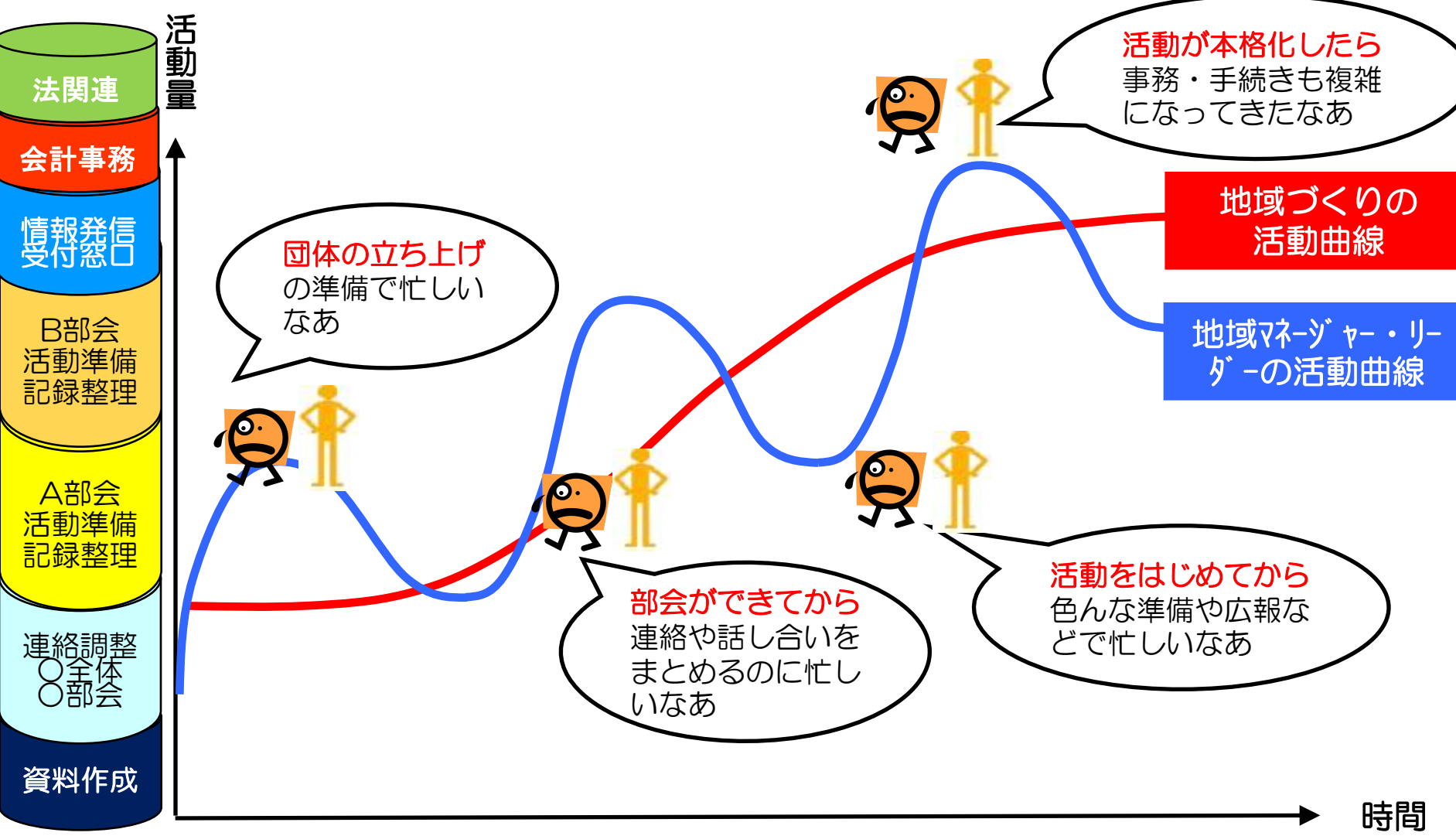
- ◆マネージャーの業務量は想定した業務時間をほぼ毎月超過しています。
- ◆季節、家庭や仕事の事情などのため業務量は波を描きます。業務量は波を描きながらも確実に増えていく傾向にあります。

地域マネージャーの毎月の平均業務時間



③活動拡大による地域MG、リーダーに求められる役割増大

- ◆ 団体設立、部会の設置、活動の実施をキッカケに忙しさが増す傾向にあります。
- ◆ マネージャーの業務と地域づくりの進展は「パラレル」ではありません。



④地域マネージャーについてまわる4つの「悩み」の環

出発

地域マネージャーって何なのか？
自分は何をすればいいのか？
活動の目的は何なのか？
最終到達点はどこなのか？

不安

トラブル



孤独

多忙

商品にクレームがでた！
他団体との交渉がうまくいかない
イベントをしたら大赤字に

なかなか人が集まらない。
話し合いで話が前に進まない。
わからないことは誰に相談？

自分に仕事が集中する。
自分の代わりがないからどこでも出席
基礎的な業務ができなくなっていく。
家庭があるから休みたいけど余裕がい。

- ◆ 地域づくりの進み具合に応じてマネージャーには「悩み」がつきまといます。
- ◆ 「悩み」が解消せず累積すれば、地域マネージャー1人の力が「0.6人分の力」に！？
- ◆ 地域マネージャーは「オールラウンドプレイヤー」？

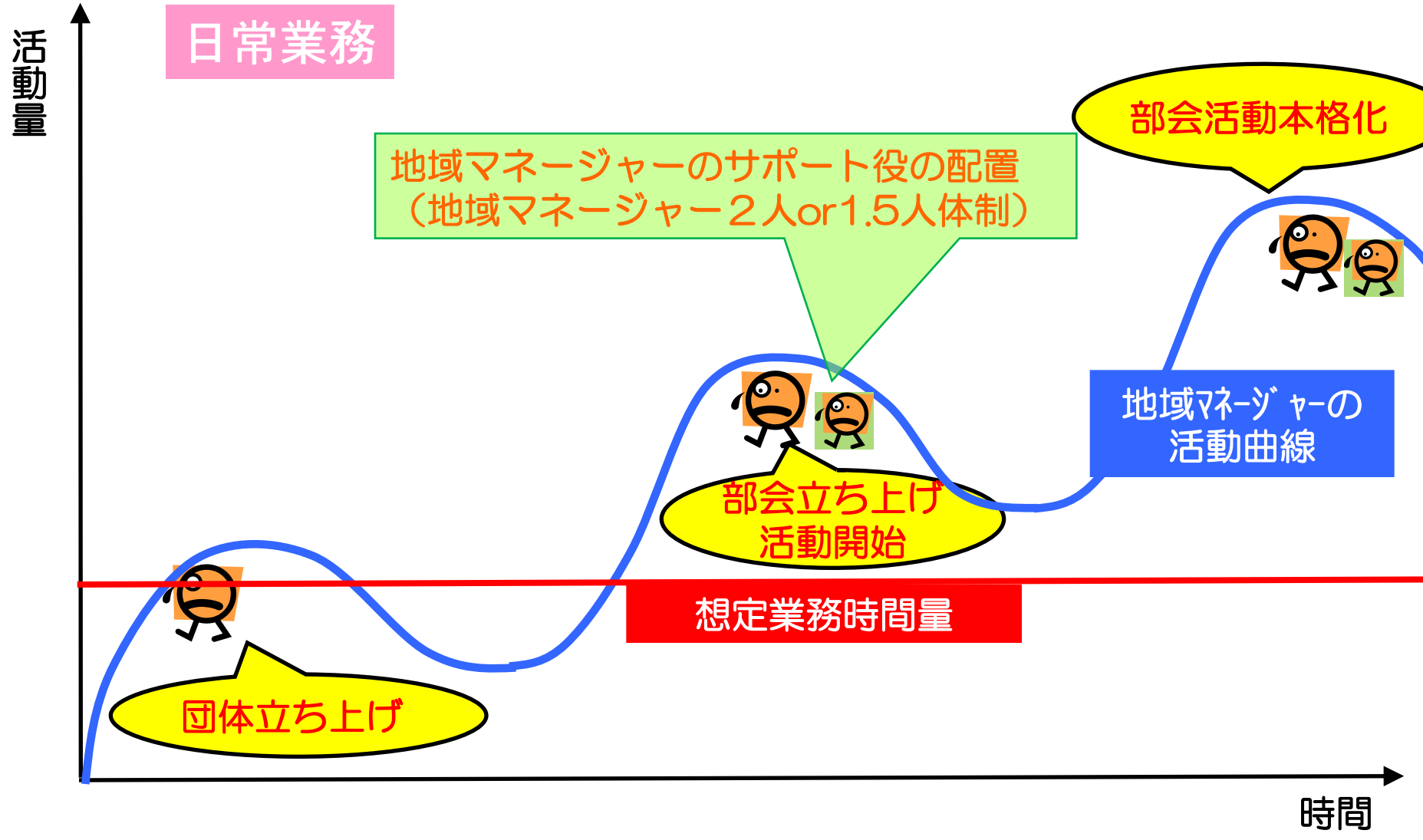
地域マネージャー業務をサポートする制度設計が必要

(2) 今後、活動を進めていく上での課題

- ① 活動拡大に応じた各地区の役割分担の再整理**
- ② 日々の活動での行政との連携体制の充実**
- ③ 活動の本格化に向けた専門的サポート体制づくり**

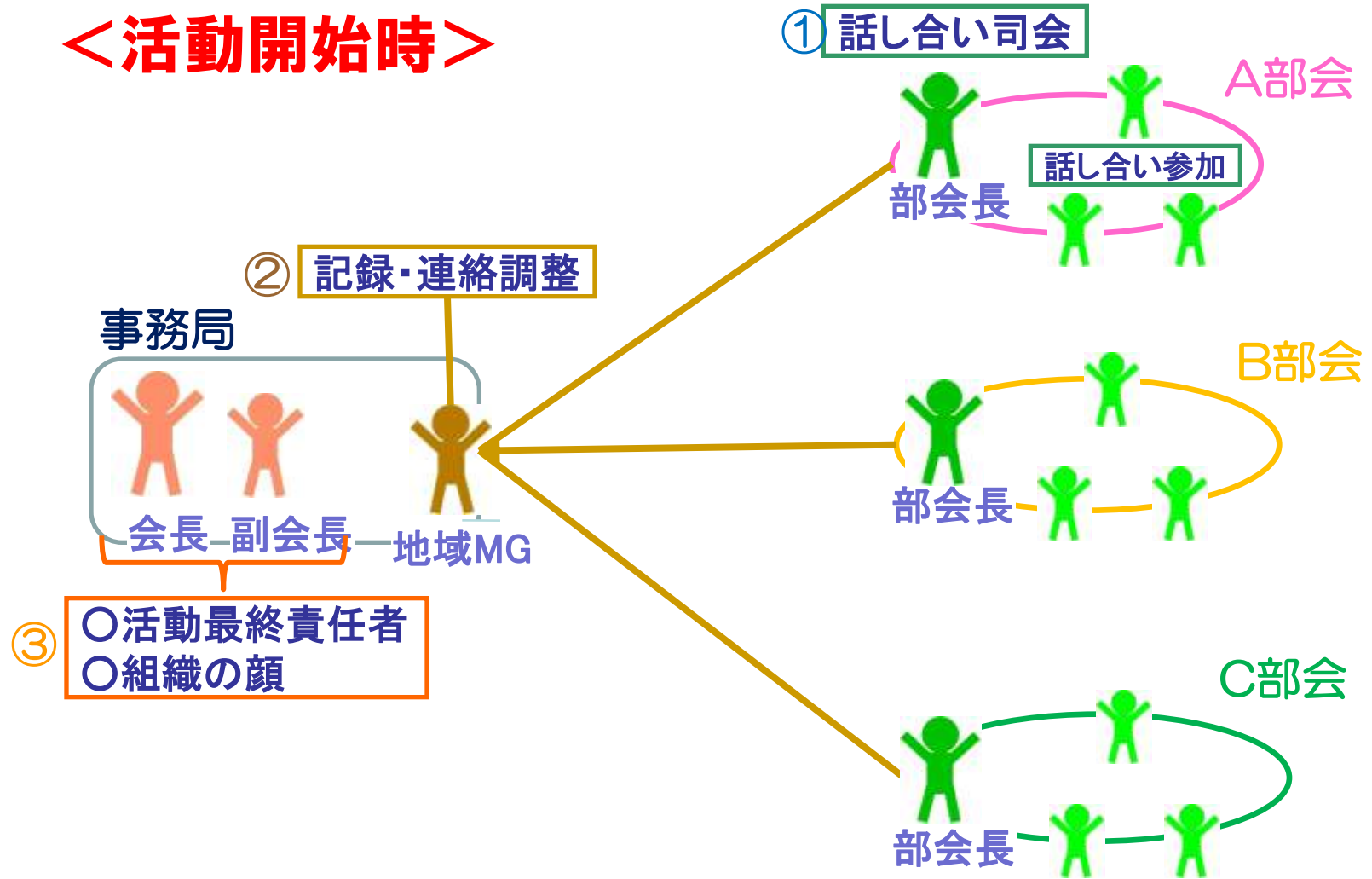
①活動拡大に応じた各地区の役割分担の再整理

ア. 地域マネージャーの従事内容に見合った条件整備



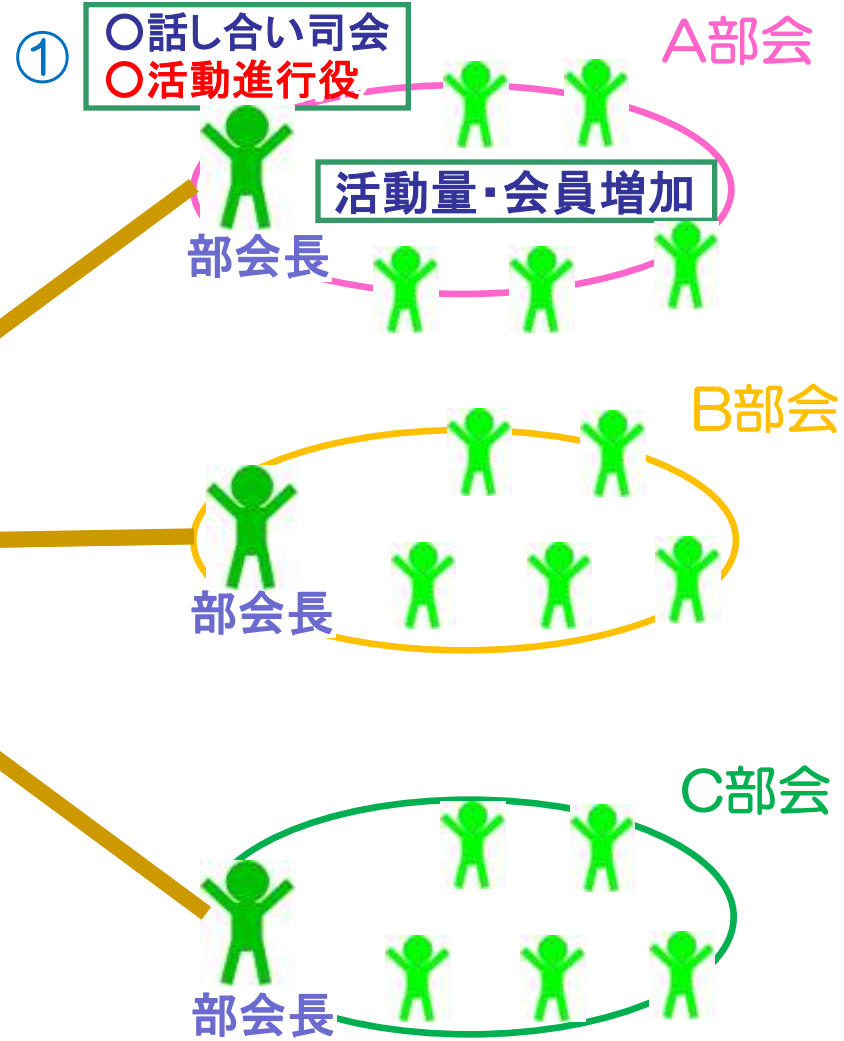
イ. 活動組織(コミP実施団体)内での役割分担の見直し

<活動開始時>



<活動量拡大>

★負担増



★負担増

- ②
- 記録・連絡調整
 - 活動準備
 - 情報発信
 - 受付窓口

事務局



- ③
- 活動最責任者
 - 他団体交渉の顔
 - 営業の顔
 - トラブル対応

★負担増

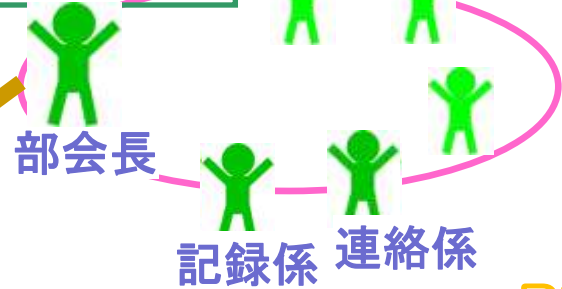
<役割分担の見直し>

★負担減

①

- 話し合い司会
- 活動進行役

A部会



★負担減

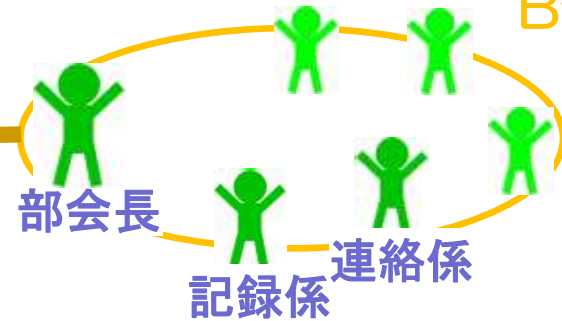
②

- 記録・連絡調整
- 活動準備
- 情報発信
- 受付窓口

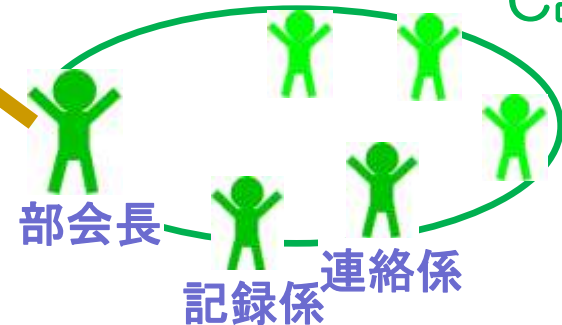
事務局



B部会



C部会



③

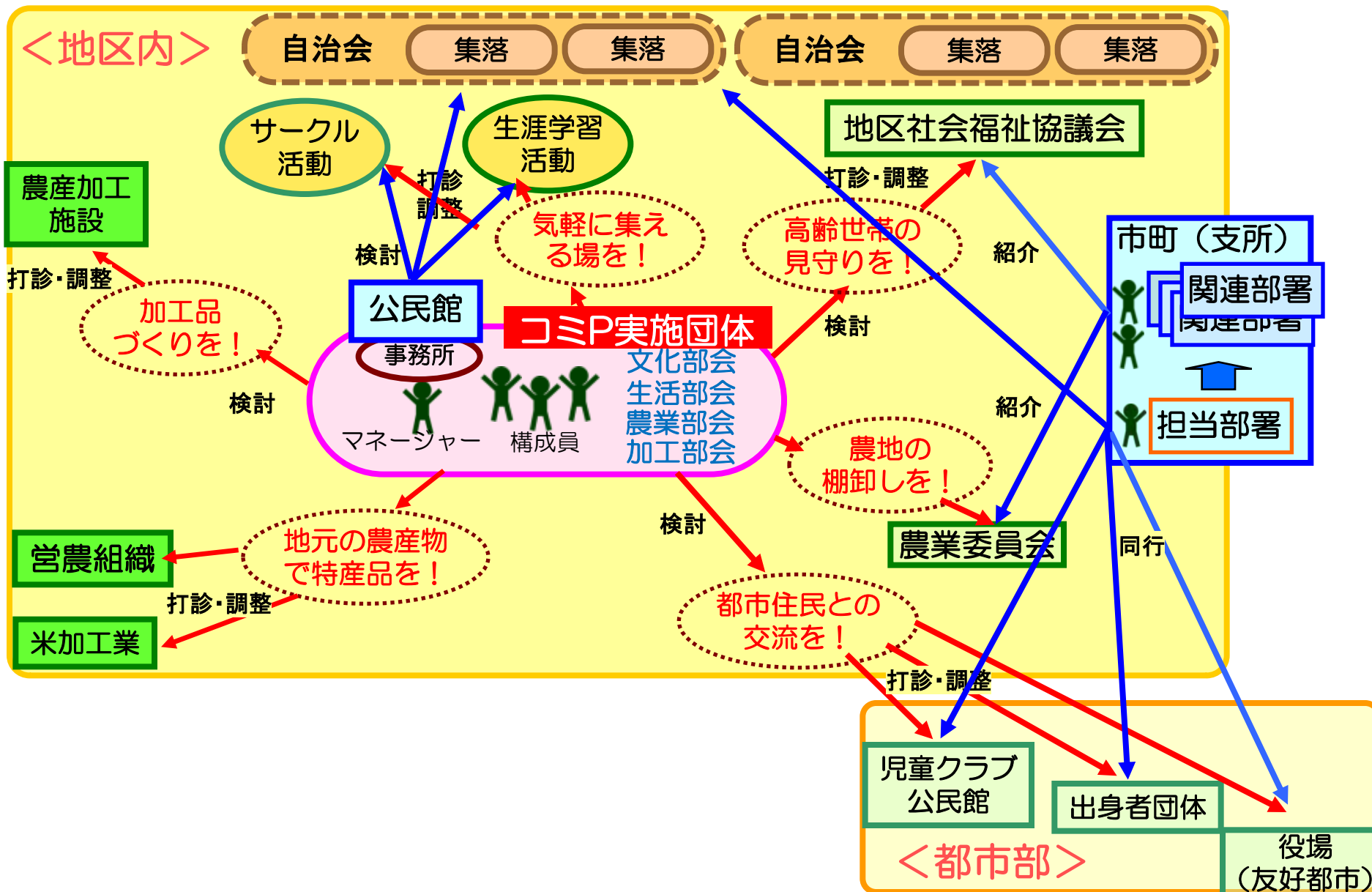
- 活動最責任者
- 他団体交渉の顔
- 営業の顔
- トラブル対応

★負担減

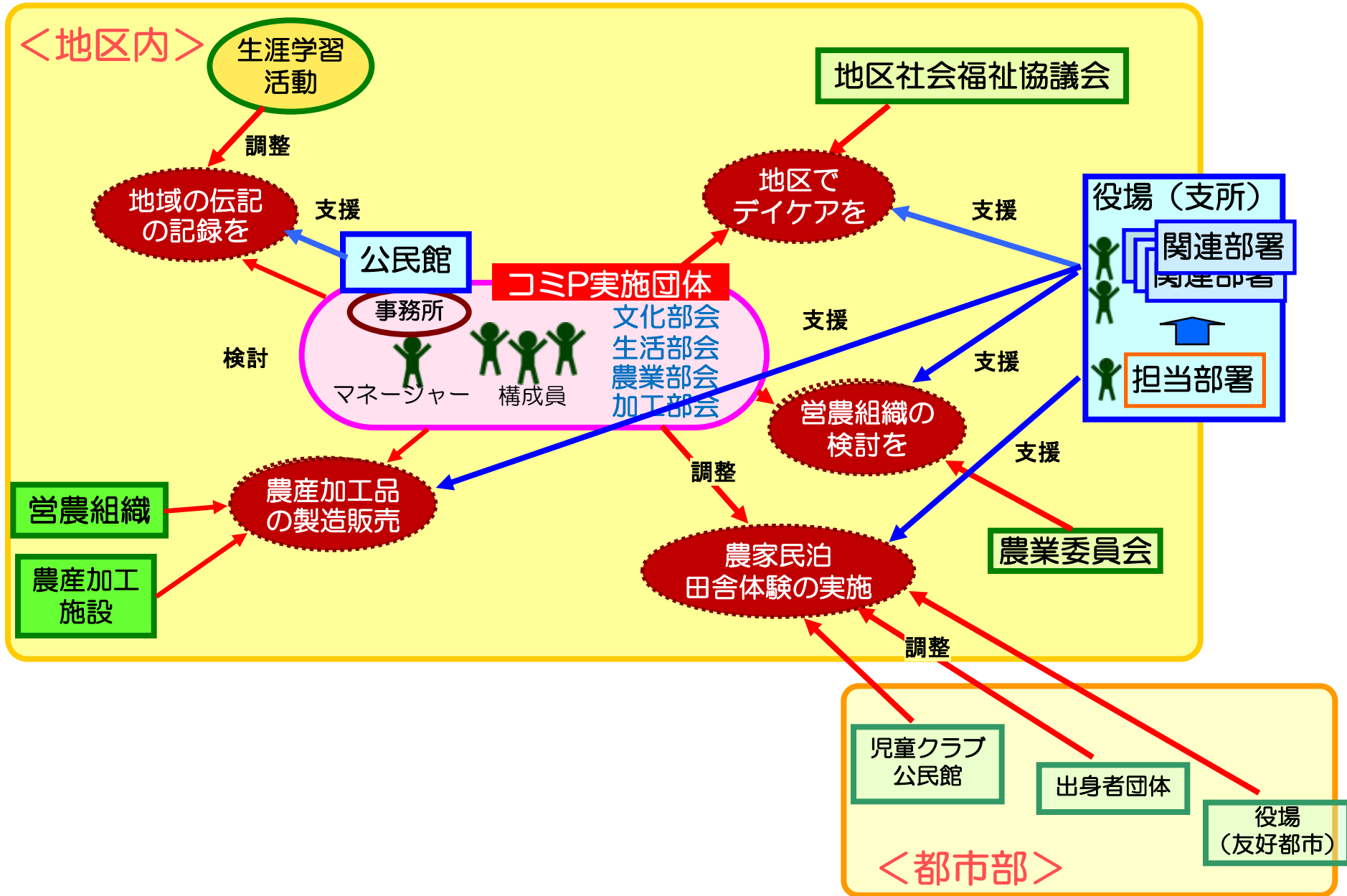
部会、事務局の役割の分散

②日々の活動での行政との連携体制の充実

ア. 地区内の集落等・各種組織・施設とのつなぎ

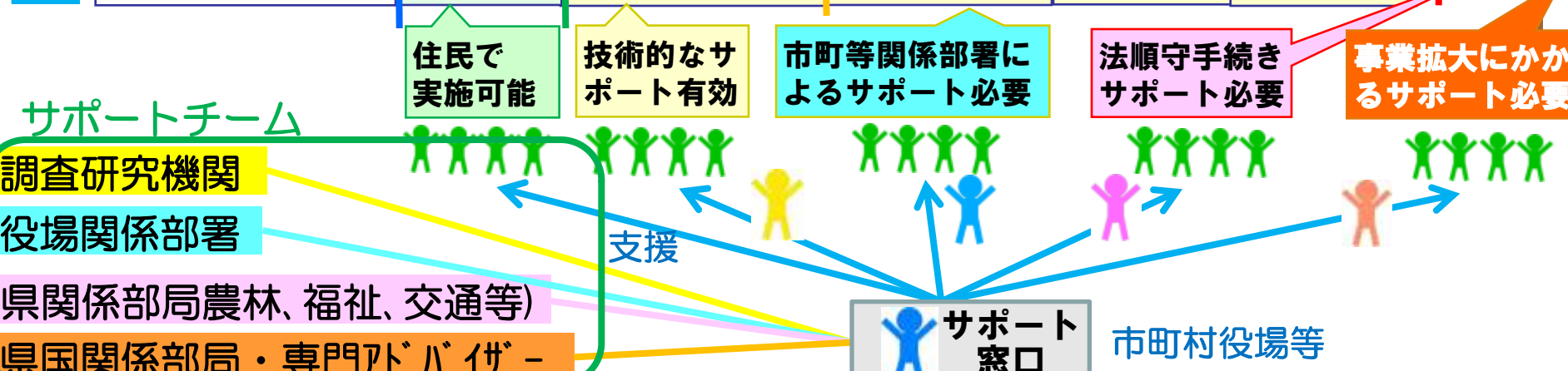


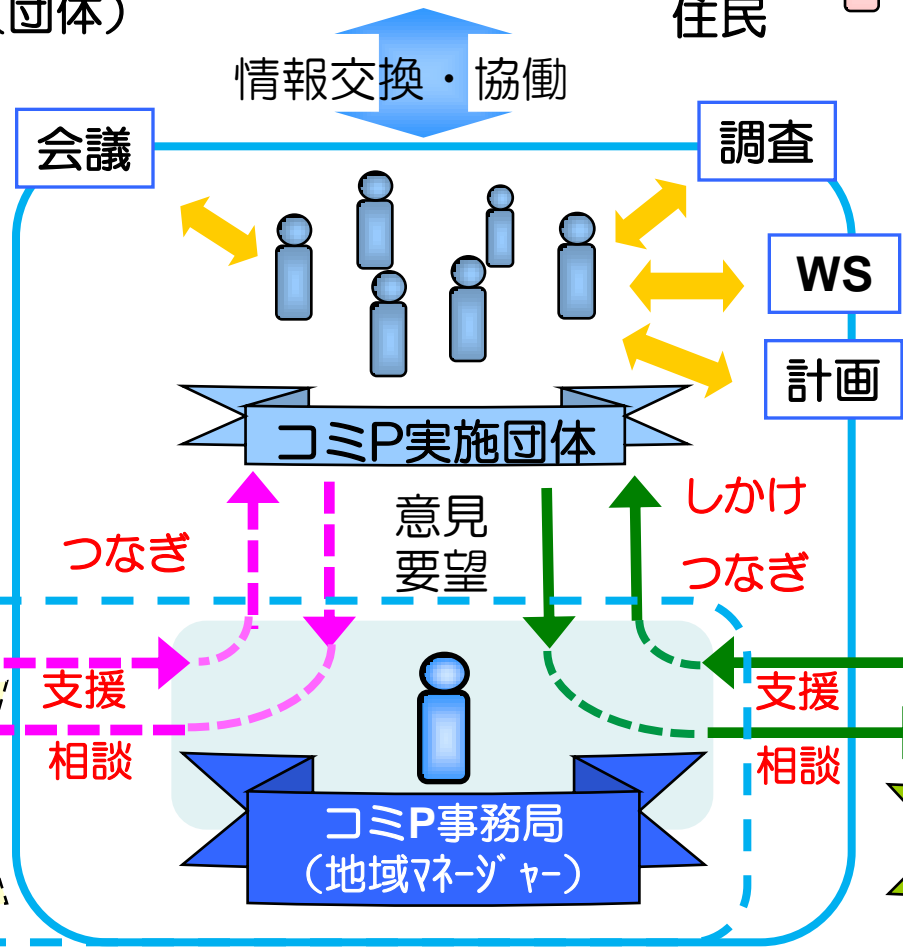
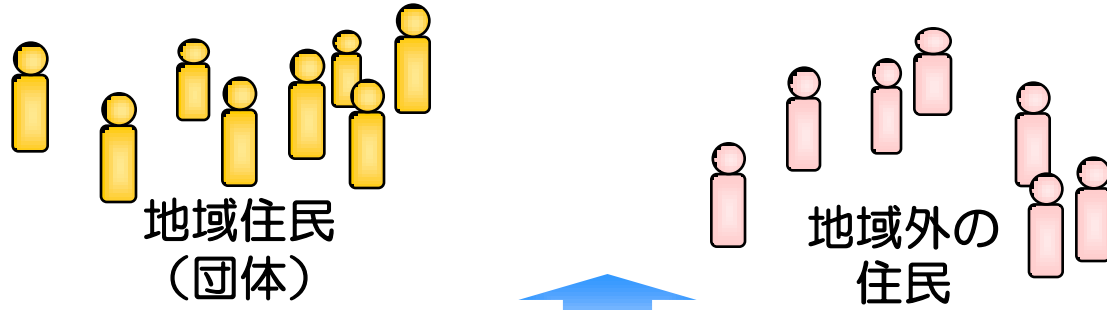
イ. しかけづくり



③活動の本格化に向けた専門的サポート体制づくり

〇プロジェクト	組織運営	話し合い	無償活動	資金繰り開始			
	加工品製造販売	話し合い	販路検討	施設検討	事業計画	実施	販路拡大(開拓)
	移送サービス	話し合い	ニーズ調査	関係者協議	事業計画	運行	
	農林産物販売	話し合い	販路検討	生産計画	販売		販路拡大(開拓)
	営農体制づくり	話し合い	棚卸し調査	営農組織検討	事業計画	実施	補助金利用
	空き屋の活用	話し合い	空き家調査	空き家情報提供	斡旋・仲介		
	地域福祉活動	話し合い	ニーズ調査	関係者協議	活動開始	拡大検討	事業導入
	防災マップ作成	話し合い	危険個所調査	関係者協議	体制検討	避難計画	



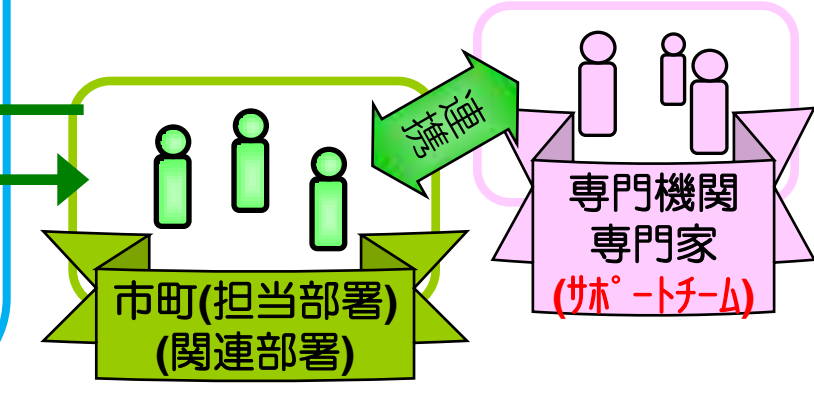


行政によるサポート体制

- ◆ 事務局には多様な役割・作業が求められる（地域マネージャー1人では対応困難）
- ◆ 市町担当部署はじめ行政が定期的に現場に関与
- ◆ 必要に応じ地域マネージャーと連携し「つなぎ」「しかけ」でサポートすることが必要。
- ◆ 活動拡大に併せ、市町担当部署→同関連部署→専門チームと支援体制の充実が必要。



事務局運営支援



役場・専門機関との協働

参加協力

まとめ

1. 成果:実質1年～1年半で最大の成果

- リーダーさん、地域マネージャーさんを礎に調査・企画・実行・改善まで担う新たな地域づくりの輪ができた
- 地区内で→人と人、人と物が繋がり化学反応(新たな動き)を起きつつある
- 地区外へ→地区内と地区外の人が繋がり、新たな可能性を生みつつある

2. 課題～組織づくりと活動を進めていくために～

- 地域マネージャーの従事内容に見合った条件整備
- 活動組織(コミP実施団体)内での役割分担の見直し
- 活動本格化に向けたサポート体制づくり「つなぎ」「しかけ」「専門サポートチーム」
支援体制の充実:市町担当部署→担当部署+関連部署→担当部署+関連部署+専門機関
- 地区の様々な方がより関われる組織へ(女性、or若者、or各集落、or・・・)

3. 2年目の節目を契機に

- スケジュールの再確認(着手したこと、してないけどすべきこと)
- 新たに気づいたやるべきこと「守りの分野」と「攻めの分野」
- 5年後・10年後の組織・地域像、スケジュール、目標を再整理して・・・

焦りすぎないで、楽しみながら、できたことを皆で確認しながら一步一步